

今週（7月9日から7月13日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み最終週となり、調整の動きが活発化する展開となった。当座預金残高は週を通して380兆円台後半から始まり、5Y発行や夏季賞与に伴う源泉所得税揚げ等があったことで、380兆円台半ばまで減少した。今週の無担保コールO/N物は、週初は先週に引き続き調達サイドの参加者が限定的であり、低い水準での取引が中心であったが、週の後半に掛けては積みの最終日に向けた調達ニーズが活発化し、ややレートが上昇した。出合いの水準は、週初9日から11日にかけては▲0.086～▲0.05%のレンジが中心で推移したが、12日を境にレートが上昇し、▲0.075～▲0.045%の出合いが中心となった。13日は連休の関係で積み期間を跨ぐ取引となることから、一部の先からは調達を控える動きが見られたため、朝方の出合い水準こそ▲0.08～▲0.04%が中心となったものの、一巡後はビッドサイドが閑散となり、出し残るオファーも見られた。

ターム物は、積み期間が切り替わるタイミングであったことから週の前半は引き合いが限られていたが、週の半ばからは来積み期のスタートの引き合いが増加し、1～2W物のショートタームで▲0.06～▲0.05%近辺での出合いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは13日に2W物・8,000億円がオファーされ、2,853億円（期落ち額2,382億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.095～▲0.080%程度の水準で推移した。9日のT/N(7/10-7/11)は、▲0.085～▲0.080%での出合い。10日のT/N(7/11-7/12)は、▲0.085%程度での出合い。11日のT/N(7/12-7/13)は、▲0.090～▲0.085%での出合い。12日のT/N(7/13-7/17)は、▲0.095～▲0.090%での出合い。13日のT/N(7/17-7/18)は、▲0.095～▲0.090%程度での出合い。

SC個別銘柄では、5年130～136、10年335～351、20年160～165、30年55～59、40年6～11などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、全般的には閑散なマーケットだったものの、売り急ぐ動きも特段見られず、店頭見合いの買いから強めの出合いが散見された。

9日に実施された6M物の入札は、WI取引において、▲0.143%での出合いが見られる中、入札結果は平均落札利回▲0.1407%、按分落札利回▲0.1367%としっかりした結果となった。

10日に7,500億円でオファーされた短国買入オペは、平均落札利回較差+0.001%、按分落札利回較差±0.000%と堅調なマーケットを反映した結果となった。

13日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.15～▲0.145%での出合いが見られる中、入札結果は平均落札利回▲0.1455%、按分落札利回▲0.1398%と強めの結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、石油・卸売・電気機器・その他金融などの複数の業態から大型の発行が見られた。週間償還総額5,700億円程度に対して、一般事業法人の配当・ボーナス資金手当て等により、週間発行総額1兆2,800億円程度と大幅な発行超のマーケットとなった。市場残高は引き続き17兆円台後半で推移しており、今年1月以来の18兆円台も視野に入っている。大半の銘柄が0%前後の足切となる良好な市況を反映して、CPで恒常的に調達を行っている企業では期間の長い発行も増加している。これは安定的な調達を図るとともに、トータルコストを抑える狙いがあるためだと考えられる。

12日にはCP等買入オペがオファー額2,000億円で実施された。前回同様小幅のマイナス圏での決着が予想される中、平均落札レートは▲0.001%・按分落札レート▲0.003%と前回から平均が僅かに低下し、按分は横ばいという結果になった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
7/9（月）	22,052.18	0.025	110.48	△ 0.071	△ 0.085	3,884,300
7/10（火）	22,196.89	0.035	110.99	△ 0.071	△ 0.088	3,887,500
7/11（水）	21,932.21	0.035	110.88	△ 0.068	△ 0.091	3,865,100
7/12（木）	22,187.96	0.035	112.28	△ 0.064	△ 0.099	3,852,200
7/13（金）	22,597.35	0.035	112.70	△ 0.065	△ 0.100	3,853,100

来週（7月17日から7月20日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
7/16 (月)	海の日				6月の米小売売上高 5月の米企業在庫
7/17 (火)	5月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)				6月の米鉱工業生産・設備稼働率
7/18 (水)		流動性供給 6,000億円 7/19発行	交付税借入 10,500億円 7/26借入		米ベージュブック 6月の米住宅着工件数 6月のユーロ圏消費者物価指数改定値 6月の英消費者物価指数
7/19 (木)	月例経済報告（内閣府） 6月の貿易統計(財務省 8:50)	TB1Y 21,000億円 7/20発行			
7/20 (金)	6月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 43,200億円 7/23発行	流動性供給 4,000億円 7/23発行		

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/16 (月)	海の日								
7/17 (火)	800	4,700	5,500	全店共通 CP買入 国債買入 国債補完 社債買入 ETF買入	▲ 2,400 ▲ 700 300 ▲ 100	2,900 6,900 600	7,500	13,000	TB3M発行▲42500償還35900 2Y償還13200 個人向け3・5・10Y発行▲4300 個人向け3・5・10Y償還1800
7/18 (水)	1,000	2,000	3,000	CP買入		2,000	2,000	5,000	
7/19 (木)	0	▲ 2,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	流動性供給▲6000
7/20 (金)	▲ 1,000	▲ 6,000	▲ 7,000				0	▲ 7,000	TB1Y発行▲21000償還8600 変動15Y償還5800 交付税借入▲10500期日10500 エネルギー対策借入▲7000償還7000
週 間 合 計	800	▲ 1,300	▲ 500	—	▲ 2,900	12,400	9,500	9,000	

7/17は日銀予想、7/18以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、17日に国庫短期証券の発行超や2年債の償還などが予定されているが、週を通して1兆円以上の増減が発生する日は無いと見込まれる。無担保コールO/N加重平均レートは▲0.07%近辺で推移が予想される。
 レボ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、引き続きレートは横ばい圏で推移すると見られる。
 短国市場は、19日に1Y物、20日に3M物の入札が実施予定となっている。四半期末越えの玉確保ニーズ等がどこまであるか、堅調な展開が続くかどうか等が注目される。
 CP市場は、市場残高の回復傾向が続いており、引き続き活発な発行が期待される。
 主要なイベントとしては、国内では20日に6月の全国CPIの公表などが予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
 ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされようようお願い申し上げます。
 ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。